

科目名 市場と経済 A
Title Market and Economy
科目区分 6 群 必修及び演習

担当教員
准教授 天羽 正継 (アモウ マサツグ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

- ・ 1 年生次を対象に、経済学の基礎となる考え方を学ぶ。
 - ・ さまざまな社会現象を経済学ではどのように考えるかを知る。
 - ・ 需要と供給の概念について、視覚的な理解を養う。
 - ・ 経済学の研究分野を類型化し、具体的な経済問題との関わりをつかむ。
- 具体的には、教科書の第1~6章、第8-11章を中心に経済学の基礎を解説する。
大きく分けると前半がミクロ経済学の基本的な知識に関する部分、後半がマクロ経済学に関する基本的な知識に関する部分に相当する。

達成目標

経済学・経済理論の考え方のエッセンスをつかむ

スケジュール

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 経済学の 10 大原理：トレードオフ、限界原理、インセンティブ、交易など (教科書第 1 章)
- 第 3 回 経済学者らしく考える：フロー循環図、生産可能性フロンティア、ミクロとマクロ (教科書第 2 章)
- 第 4 回 相互依存と公益からの利益：交換、比較優位 (教科書第 3 章)
- 第 5 回 市場における需要と供給の作用：需要・供給 (教科書第 4 章)
- 第 6 回 市場における需要と供給の作用：需要と供給の関係、均衡 (教科書第 4 章)
- 第 7 回 需要、供給、及び政府の政策：価格規制・税金 (教科書第 5 章)
- 第 8 回 需要、供給、及び政府の政策：需要の価格弾力性・供給の価格弾力性 (教科書第 5 章補論)
- 第 9 回 消費者・生産者・市場の効率性：消費者余剰・生産者余剰 (教科書第 6 章)
- 第 10 回 消費者・生産者・市場の効率性：総余剰・市場の効率性 (教科書第 6 章)
- 第 11 回 国民所得の測定：GDP、GDP の構成、名目と実質 (教科書第 8 章)
- 第 12 回 生計費の測定：物価、消費者物価指数、インフレーション、デフレーション (教科書第 9 章)
- 第 13 回 生産と成長：経済成長とは、生産性、貯蓄と投資 (教科書第 10 章)
- 第 14 回 貯蓄・投資と金融システム：金融市場、国民所得勘定の恒等式、貨幣の機能 (教科書第 11 章、第 11 章補論 1)
- 第 15 回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 N・グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー入門経済学 (第3版)』東洋経済新報社

参考書 各担当教員よりガイダンス時に指示。

授業外での学習

毎回講義前に、該当する教科書の章を読み、予習すること。また、教科書各章の終わりに、章のポイントや演習問題がまとめられているので、予習・復習に活用すること。また、本年度は宿題をe-learning教材の問題演習により提出してもらう。

評価方法

教科書の各章が終わるごとにe-learning教材の演習問題を行う宿題 (10回予定、計30%) と学期末試験 (70%) により評価する。詳細については各担当教員よりガイダンス時に指示する。

履修上の注意

2・3年次に配当される専門基礎科目 (基礎マクロ経済学、基礎ミクロ経済学) のいわば「予習」に相当する内容を学ぶ。今後の4年間の学習のベースになる知識を得るための講義なので、そのつもりで履修してほしい。

科目名 市場と経済B
Title Market and Economy
科目区分 6群 必修及び演習

教授 山本 芳弘 (ヤマモト ヨシヒロ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1 単位区分 必修 単位数 2 開講時期 前期

目的

- ・ 1年生次を対象に、経済学の基礎となる考え方を学ぶ。
 - ・ さまざまな社会現象を経済学ではどのように考えるかを知る。
 - ・ 需要と供給の概念について、視覚的な理解を養う。
 - ・ 経済学の研究分野を類型化し、具体的な経済問題との関わりをつかむ。
- 具体的には、教科書の第1~6章、第8-11章を中心に経済学の基礎を解説する。
大きく分けると前半がミクロ経済学の基本的な知識に関する部分、後半がマクロ経済学に関する基本的な知識に関する部分に相当する。

達成目標

経済学・経済理論の考え方のエッセンスをつかむ

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経済学の10大原理：トレードオフ、限界原理、インセンティブ、交易など（教科書第1章）
- 第3回 経済学者らしく考える：フロー循環図、生産可能性フロンティア、ミクロとマクロ（教科書第2章）
- 第4回 相互依存と公益からの利益：交換、比較優位（教科書第3章）
- 第5回 市場における需要と供給の作用：需要・供給（教科書第4章）
- 第6回 市場における需要と供給の作用：需要と供給の関係、均衡（教科書第4章）
- 第7回 需要、供給、及び政府の政策：価格規制・税金（教科書第5章）
- 第8回 需要、供給、及び政府の政策：需要の価格弾力性・供給の価格弾力性（教科書第5章補論）
- 第9回 消費者・生産者・市場の効率性：消費者余剰・生産者余剰（教科書第6章）
- 第10回 消費者・生産者・市場の効率性：総余剰・市場の効率性（教科書第6章）
- 第11回 国民所得の測定：GDP、GDPの構成、名目と実質（教科書第8章）
- 第12回 生計費の測定：物価、消費者物価指数、インフレーション、デフレーション（教科書第9章）
- 第13回 生産と成長：経済成長とは、生産性、貯蓄と投資（教科書第10章）
- 第14回 貯蓄・投資と金融システム：金融市場、国民所得勘定の恒等式、貨幣の機能（教科書第11章、第11章補論1）
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 N・グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー入門経済学(第3版)』東洋経済新報社

参考書 各担当教員よりガイダンス時に指示。

授業外での学習

毎回講義前に、該当する教科書の章を読み、予習すること。また、教科書各章の終わりに、章のポイントや演習問題がまとめられているので、予習・復習に活用すること。また、本年度は宿題をe-learning教材の問題演習により提出してもらう。

評価方法

教科書の各章が終わるごとにe-learning教材の演習問題を行う宿題(10回予定、計30%)と学期末試験(70%)により評価する。詳細については各担当教員よりガイダンス時に指示する。

履修上の注意

2・3年次に配当される専門基礎科目(基礎マクロ経済学、基礎ミクロ経済学)のいわば「予習」に相当する内容を学ぶ。今後の4年間の学習のベースになる知識を得るための講義なので、そのつもりで履修してほしい。

科目名 市場と経済C
Title Market and Economy
科目区分 6群 必修及び演習

教授 藤井 孝宗 (フジイ タカムネ)
担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

- ・ 1年生次を対象に、経済学の基礎となる考え方を学ぶ。
 - ・ さまざまな社会現象を経済学ではどのように考えるかを知る。
 - ・ 需要と供給の概念について、視覚的な理解を養う。
 - ・ 経済学の研究分野を類型化し、具体的な経済問題との関わりをつかむ。
- 具体的には、教科書の第1~6章、第8-11章を中心に経済学の基礎を解説する。
大きく分けると前半がミクロ経済学の基本的な知識に関する部分、後半がマクロ経済学に関する基本的な知識に関する部分に相当する。

達成目標

経済学・経済理論の考え方のエッセンスをつかむ

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経済学の10大原理：トレードオフ、限界原理、インセンティブ、交易など（教科書第1章）
- 第3回 経済学者らしく考える：フロー循環図、生産可能性フロンティア、ミクロとマクロ（教科書第2章）
- 第4回 相互依存と公益からの利益：交換、比較優位（教科書第3章）
- 第5回 市場における需要と供給の作用：需要・供給（教科書第4章）
- 第6回 市場における需要と供給の作用：需要と供給の関係、均衡（教科書第4章）
- 第7回 需要、供給、及び政府の政策：価格規制・税金（教科書第5章）
- 第8回 需要、供給、及び政府の政策：需要の価格弾力性・供給の価格弾力性（教科書第5章補論）
- 第9回 消費者・生産者・市場の効率性：消費者余剰・生産者余剰（教科書第6章）
- 第10回 消費者・生産者・市場の効率性：総余剰・市場の効率性（教科書第6章）
- 第11回 国民所得の測定：GDP、GDPの構成、名目と実質（教科書第8章）
- 第12回 生計費の測定：物価、消費者物価指数、インフレーション、デフレーション（教科書第9章）
- 第13回 生産と成長：経済成長とは、生産性、貯蓄と投資（教科書第10章）
- 第14回 貯蓄・投資と金融システム：金融市場、国民所得勘定の恒等式、貨幣の機能（教科書第11章、第11章補論1）
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 N・グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー入門経済学(第3版)』東洋経済新報社

参考書 各担当教員よりガイダンス時に指示。

授業外での学習

毎回講義前に、該当する教科書の章を読み、予習すること。また、教科書各章の終わりに、章のポイントや演習問題がまとめられているので、予習・復習に活用すること。また、本年度は宿題をe-learning教材の問題演習により提出してもらう。

評価方法

教科書の各章が終わるごとにe-learning教材の演習問題を行う宿題(10回予定、計30%)と学期末試験(70%)により評価する。詳細については各担当教員よりガイダンス時に指示する。

履修上の注意

2・3年次に配当される専門基礎科目(基礎マクロ経済学、基礎ミクロ経済学)のいわば「予習」に相当する内容を学ぶ。今後の4年間の学習のベースになる知識を得るための講義なので、そのつもりで履修してほしい。

科目名 市場と経済D
Title Market and Economy
科目区分 6群 必修及び演習

担当教員
教授 野崎 謙二 (ノザキ ケンジ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	--------------	----------	------------

目的

- ・ 1年生次を対象に、経済学の基礎となる考え方を学ぶ。
 - ・ さまざまな社会現象を経済学ではどのように考えるかを知る。
 - ・ 需要と供給の概念について、視覚的な理解を養う。
 - ・ 経済学の研究分野を類型化し、具体的な経済問題との関わりをつかむ。
- 具体的には、教科書の第1~6章、第8-11章を中心に経済学の基礎を解説する。
大きく分けると前半がミクロ経済学の基本的な知識に関する部分、後半がマクロ経済学に関する基本的な知識に関する部分に相当する。

達成目標

経済学・経済理論の考え方のエッセンスをつかむ

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経済学の10大原理：トレードオフ、限界原理、インセンティブ、交易など（教科書第1章）
- 第3回 経済学者らしく考える：フロー循環図、生産可能性フロンティア、ミクロとマクロ（教科書第2章）
- 第4回 相互依存と公益からの利益：交換、比較優位（教科書第3章）
- 第5回 市場における需要と供給の作用：需要・供給（教科書第4章）
- 第6回 市場における需要と供給の作用：需要と供給の関係、均衡（教科書第4章）
- 第7回 需要、供給、及び政府の政策：価格規制・税金（教科書第5章）
- 第8回 需要、供給、及び政府の政策：需要の価格弾力性・供給の価格弾力性（教科書第5章補論）
- 第9回 消費者・生産者・市場の効率性：消費者余剰・生産者余剰（教科書第6章）
- 第10回 消費者・生産者・市場の効率性：総余剰・市場の効率性（教科書第6章）
- 第11回 国民所得の測定：GDP、GDPの構成、名目と実質（教科書第8章）
- 第12回 生計費の測定：物価、消費者物価指数、インフレーション、デフレーション（教科書第9章）
- 第13回 生産と成長：経済成長とは、生産性、貯蓄と投資（教科書第10章）
- 第14回 貯蓄・投資と金融システム：金融市場、国民所得勘定の恒等式、貨幣の機能（教科書第11章、第11章補論1）
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 N・グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー入門経済学(第3版)』東洋経済新報社

参考書 各担当教員よりガイダンス時に指示。

授業外での学習

毎回講義前に、該当する教科書の章を読み、予習すること。また、教科書各章の終わりに、章のポイントや演習問題がまとめられているので、予習・復習に活用すること。また、本年度は宿題をe-learning教材の問題演習により提出してもらう。

評価方法

教科書の各章が終わるごとにe-learning教材の演習問題を行う宿題(10回予定、計30%)と学期末試験(70%)により評価する。詳細については各担当教員よりガイダンス時に指示する。

履修上の注意

2・3年次に配当される専門基礎科目(基礎マクロ経済学、基礎ミクロ経済学)のいわば「予習」に相当する内容を学ぶ。今後の4年間の学習のベースになる知識を得るための講義なので、そのつもりで履修してほしい。

科目名 市場と経済 (前期)
Title Market and Economy
科目区分 6群 必修及び演習

准教授 服部 昌彦 (ハットリ マサヒコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
前期

目的

- ・ 1年生次を対象に、経済学の基礎となる考え方を学ぶ。
 - ・ さまざまな社会現象を経済学ではどのように考えるかを知る。
 - ・ 需要と供給の概念について、視覚的な理解を養う。
 - ・ 経済学の研究分野を類型化し、具体的な経済問題との関わりをつかむ。
- 具体的には、教科書の第1~6章、第8-11章を中心に経済学の基礎を解説する。
大きく分けると前半がミクロ経済学の基本的な知識に関する部分、後半がマクロ経済学に関する基本的な知識に関する部分に相当する。

達成目標

経済学・経済理論の考え方のエッセンスをつかむ

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経済学の10大原理：トレードオフ、限界原理、インセンティブ、交易など (教科書第1章)
- 第3回 経済学者らしく考える：フロー循環図、生産可能性フロンティア、ミクロとマクロ (教科書第2章)
- 第4回 相互依存と公益からの利益：交換、比較優位 (教科書第3章)
- 第5回 市場における需要と供給の作用：需要・供給 (教科書第4章)
- 第6回 市場における需要と供給の作用：需要と供給の関係、均衡 (教科書第4章)
- 第7回 需要、供給、及び政府の政策：価格規制・税金 (教科書第5章)
- 第8回 需要、供給、及び政府の政策：需要の価格弾力性・供給の価格弾力性 (教科書第5章補論)
- 第9回 消費者・生産者・市場の効率性：消費者余剰・生産者余剰 (教科書第6章)
- 第10回 消費者・生産者・市場の効率性：総余剰・市場の効率性 (教科書第6章)
- 第11回 国民所得の測定：GDP、GDPの構成、名目と実質 (教科書第8章)
- 第12回 生計費の測定：物価、消費者物価指数、インフレーション、デフレーション (教科書第9章)
- 第13回 生産と成長：経済成長とは、生産性、貯蓄と投資 (教科書第10章)
- 第14回 貯蓄・投資と金融システム：金融市場、国民所得勘定の恒等式、貨幣の機能 (教科書第11章、第11章補論1)
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 N・グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー入門経済学 (第3版)』東洋経済新報社

参考書 各担当教員よりガイダンス時に指示。

授業外での学習

毎回講義前に、該当する教科書の章を読み、予習すること。また、教科書各章の終わりに、章のポイントや演習問題がまとめられているので、予習・復習に活用すること。また、本年度は宿題をe-learning教材の問題演習により提出してもらう。

評価方法

教科書の各章が終わるごとにe-learning教材の演習問題を行う宿題 (10回予定、計30%) と学期末試験 (70%) により評価する。詳細については各担当教員よりガイダンス時に指示する。

履修上の注意

2・3年次に配当される専門基礎科目 (基礎マクロ経済学、基礎ミクロ経済学) のいわば「予習」に相当する内容を学ぶ。今後の4年間の学習のベースになる知識を得るための講義なので、そのつもりで履修してほしい。

科目名 市場と経済 (後期)
Title Market and Economy
科目区分 6群 必修及び演習

准教授 服部 昌彦 (ハットリ マサヒコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

- ・ 1年生次を対象に、経済学の基礎となる考え方を学ぶ。
 - ・ さまざまな社会現象を経済学ではどのように考えるかを知る。
 - ・ 需要と供給の概念について、視覚的な理解を養う。
 - ・ 経済学の研究分野を類型化し、具体的な経済問題との関わりをつかむ。
- 具体的には、教科書の第1~6章、第8-11章を中心に経済学の基礎を解説する。大きく分けると前半がミクロ経済学の基本的な知識に関する部分、後半がマクロ経済学に関する基本的な知識に関する部分に相当する。

達成目標

経済学・経済理論の考え方のエッセンスをつかむ

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経済学の10大原理：トレードオフ、限界原理、インセンティブ、交易など (教科書第1章)
- 第3回 経済学者らしく考える：フロー循環図、生産可能性フロンティア、ミクロとマクロ (教科書第2章)
- 第4回 相互依存と公益からの利益：交換、比較優位 (教科書第3章)
- 第5回 市場における需要と供給の作用：需要・供給 (教科書第4章)
- 第6回 市場における需要と供給の作用：需要と供給の関係、均衡 (教科書第4章)
- 第7回 需要、供給、及び政府の政策：価格規制・税金 (教科書第5章)
- 第8回 需要、供給、及び政府の政策：需要の価格弾力性・供給の価格弾力性 (教科書第5章補論)
- 第9回 消費者・生産者・市場の効率性：消費者余剰・生産者余剰 (教科書第6章)
- 第10回 消費者・生産者・市場の効率性：総余剰・市場の効率性 (教科書第6章)
- 第11回 国民所得の測定：GDP、GDPの構成、名目と実質 (教科書第8章)
- 第12回 生計費の測定：物価、消費者物価指数、インフレーション、デフレーション (教科書第9章)
- 第13回 生産と成長：経済成長とは、生産性、貯蓄と投資 (教科書第10章)
- 第14回 貯蓄・投資と金融システム：金融市場、国民所得勘定の恒等式、貨幣の機能 (教科書第11章、第11章補論1)
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 N・グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー入門経済学 (第3版)』東洋経済新報社

参考書 各担当教員よりガイダンス時に指示。

授業外での学習

毎回講義前に、該当する教科書の章を読み、予習すること。また、教科書各章の終わりに、章のポイントや演習問題がまとめられているので、予習・復習に活用すること。また、本年度は宿題をe-learning教材の問題演習により提出してもらう。

評価方法

教科書の各章が終わるごとにe-learning教材の演習問題を行う宿題 (10回予定、計30%) と学期末試験 (70%) により評価する。詳細については各担当教員よりガイダンス時に指示する。

履修上の注意

2・3年次に配当される専門基礎科目 (基礎マクロ経済学、基礎ミクロ経済学) のいわば「予習」に相当する内容を学ぶ。今後の4年間の学習のベースになる知識を得るための講義なので、そのつもりで履修してほしい。

科目名 企業と会計A
Title Business and Accounting
科目区分 6群 必修及び演習

担当教員
非常勤講師 越智 信仁 (オチ ノブヒト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

この授業の目的は、経営学を学んでいく上で前提となる企業と会計についての基礎的事項を理解することである。具体的には、以下のことを到達目標とする。①複式簿記の原理が分かり、ごく簡単な取引事例から決算書が作れる。②基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)を読むことができ、初歩的な経営分析ができる。③企業と会計を取り巻く基本的な制度(株式会社制度、証券市場、情報開示など)を理解している。

達成目標

上記の目標を達成するために、財務諸表の読み方及びその作り方を中心に講義し、さらに必要に応じてその周辺の話題を取り上げ理解を深める。

スケジュール

- 第1回 第1章「会計の意義」 会計の歴史から説き起こし、現代の会計の全体像と会計を学ぶ意義について解説する。
- 第2回 第2章「株式会社」 現代の企業を支える基本的な制度である株式会社制度と、会社制度における会計の位置づけについて解説する。
- 第3回 第3章「資本市場」 資本市場の基本的機能と、資本市場を規律する金融商品取引法における会計について解説する。
- 第4回 第4章「財務諸表①」 主要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の意義と基本的な構造について解説する。
- 第5回 第5章「簿記」(1) 簿記の基礎を簡単な事例を通して学ぶ。仕訳から元帳への転記、試算表の作成まで。
- 第6回 第5章「簿記」(2) 精算表を使ったB/S、P/Lの作成、貸倒引当金、減価償却費等の決算整理事項。
- 第7回 第6章「財務諸表②」 キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、連結財務諸表について解説する。
- 第8回 第7章「財務諸表の分析①」 自己資本比率、流動比率等の安全性分析と、売上高利益率等の集積性分析について学ぶ。
- 第9回 第8章「財務諸表の分析②」 資本利益率であるROEとROAの意義及びそれらを分解して分析する手法を学ぶ。
- 第10回 第9章「原価計算」 製品原価計算の基本的な考え方及び原価管理の初歩について解説する。
- 第11回 第10章「損益分岐点分析」 直接原価計算の基本的な考え方と、損益分岐点分析の方法を学ぶ。
- 第12回 第11章「設備投資の意思決定」 投資意思決定の基礎として回収期間法とDCF法について解説する。
- 第13回 第12章「株式市場」 株価の理解の基礎としての配当割引モデル、リスクとリターンとの関係、株価を使った指標等を学ぶ。
- 第14回 第13章「法人税」 税金に関する基礎知識と法人税の基本的な計算構造について解説する。
- 第15回 第14章「企業の社会的責任と非財務情報開示」 CSR(企業の社会的責任)と統合報告等の新しい情報開示の動向を解説する。

教科書・参考文献

教科書 水口剛・平井裕久・後藤晃範 著『企業と会計の道しるべ』中央経済社、2017

参考書 明神信夫・水野一郎 他著『アカウンティング-現代会計入門』同文館出版,2007
佐藤裕一 著『ビジュアル 経営分析の基本(新版)』日経文庫,2003

授業外での学習

教科書を事前に読み、講義終了後は授業内容を復習しておくこと。

評価方法

平常点(中間テスト含む)20%、期末試験80%

履修上の注意

漫然と講義を聴くのではなく、各自、問題意識を持って臨むこと。途中、何回か実際に計算を行ってもらうので電卓を用意することが望ましい。

科目名 企業と会計B
Title Business and Accounting
科目区分 6群 必修及び演習

担当教員
講師 梅田 宙(ウメダ ヒロシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

この授業の目的は、経営学を学んでいく上で前提となる企業と会計についての基礎的事項を理解することである。具体的には、以下のことを到達目標とする。①複式簿記の原理が分かり、ごく簡単な取引事例から決算書が作れる。②基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)を読むことができ、初歩的な経営分析ができる。③企業と会計を取り巻く基本的な制度(株式会社制度、証券市場、情報開示など)を理解している。

達成目標

上記の目標を達成するために、財務諸表の読み方及びその作り方を中心に講義し、さらに必要に応じてその周辺の話題を取り上げ理解を深める。

スケジュール

- | | | |
|------|------------------------|--|
| 第1回 | 第1章「会計の意義」 | 会計の歴史から説き起こし、現代の会計の全体像と会計を学ぶ意義について解説する。 |
| 第2回 | 第2章「株式会社」 | 現代の企業を支える基本的な制度である株式会社制度と、会社制度における会計の位置づけについて解説する。 |
| 第3回 | 第3章「資本市場」 | 資本市場の基本的機能と、資本市場を規律する金融商品取引法における会計について解説する。 |
| 第4回 | 第4章「財務諸表①」 | 主要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の意義と基本的な構造について解説する。 |
| 第5回 | 第5章「簿記」(1) | 簿記の基礎を簡単な事例を通して学ぶ。仕訳から元帳への転記、試算表の作成まで。 |
| 第6回 | 第5章「簿記」(2) | 精算表を使ったB/S、P/Lの作成、貸倒引当金、減価償却費等の決算整理事項。 |
| 第7回 | 第6章「財務諸表②」 | キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、連結財務諸表について解説する。 |
| 第8回 | 第7章「財務諸表の分析①」 | 自己資本比率、流動比率等の安全性分析と、売上高利益率等の集積性分析について学ぶ。 |
| 第9回 | 第8章「財務諸表の分析②」 | 資本利益率であるROEとROAの意義及びそれらを分解して分析する手法を学ぶ。 |
| 第10回 | 第9章「原価計算」 | 製品原価計算の基本的な考え方及び原価管理の初歩について解説する。 |
| 第11回 | 第10章「損益分岐点分析」 | 直接原価計算の基本的な考え方と、損益分岐点分析の方法を学ぶ。 |
| 第12回 | 第11章「設備投資の意思決定」 | 投資意思決定の基礎として回収期間法とDCF法について解説する。 |
| 第13回 | 第12章「株式市場」 | 株価の理解の基礎としての配当割引モデル、リスクとリターンとの関係、株価を使った指標等を学ぶ。 |
| 第14回 | 第13章「法人税」 | 税金に関する基礎知識と法人税の基本的な計算構造について解説する。 |
| 第15回 | 第14章「企業の社会的責任と非財務情報開示」 | CSR(企業の社会的責任)と統合報告等の新しい情報開示の動向を解説する。 |

教科書・参考文献

教科書 水口剛・平井裕久・後藤晃範 著『企業と会計の道しるべ』中央経済社、2017

参考書 明神信夫・水野一郎 他著『アカウンティング-現代会計入門』同文館出版,2007
佐藤裕一 著『ビジュアル 経営分析の基本(新版)』日経文庫,2003

授業外での学習

教科書を事前に読み、講義終了後は授業内容を復習しておくこと。

評価方法

平常点(中間テスト含む)20%、期末試験80%

履修上の注意

漫然と講義を聴くのではなく、各自、問題意識を持って臨むこと。途中、何回か実際に計算を行ってもらうので電卓を用意することが望ましい。

科目名 企業と会計C
Title Business and Accounting
科目区分 6群 必修及び演習

担当教員
非常勤講師 越智 信仁 (オチ ノブヒト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

この授業の目的は、経営学を学んでいく上で前提となる企業と会計についての基礎的事項を理解することである。具体的には、以下のことを到達目標とする。①複式簿記の原理が分かり、ごく簡単な取引事例から決算書が作れる。②基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)を読むことができ、初歩的な経営分析ができる。③企業と会計を取り巻く基本的な制度(株式会社制度、証券市場、情報開示など)を理解している。

達成目標

上記の目標を達成するために、財務諸表の読み方及びその作り方を中心に講義し、さらに必要に応じてその周辺の話題を取り上げ理解を深める。

スケジュール

- 第1回 第1章「会計の意義」 会計の歴史から説き起こし、現代の会計の全体像と会計を学ぶ意義について解説する。
- 第2回 第2章「株式会社」 現代の企業を支える基本的な制度である株式会社制度と、会社制度における会計の位置づけについて解説する。
- 第3回 第3章「資本市場」 資本市場の基本的機能と、資本市場を規律する金融商品取引法における会計について解説する。
- 第4回 第4章「財務諸表①」 主要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の意義と基本的な構造について解説する。
- 第5回 第5章「簿記」(1) 簿記の基礎を簡単な事例を通して学ぶ。仕訳から元帳への転記、試算表の作成まで。
- 第6回 第5章「簿記」(2) 精算表を使ったB/S、P/Lの作成、貸倒引当金、減価償却費等の決算整理事項。
- 第7回 第6章「財務諸表②」 キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、連結財務諸表について解説する。
- 第8回 第7章「財務諸表の分析①」 自己資本比率、流動比率等の安全性分析と、売上高利益率等の集積性分析について学ぶ。
- 第9回 第8章「財務諸表の分析②」 資本利益率であるROEとROAの意義及びそれらを分解して分析する手法を学ぶ。
- 第10回 第9章「原価計算」 製品原価計算の基本的な考え方及び原価管理の初歩について解説する。
- 第11回 第10章「損益分岐点分析」 直接原価計算の基本的な考え方と、損益分岐点分析の方法を学ぶ。
- 第12回 第11章「設備投資の意思決定」 投資意思決定の基礎として回収期間法とDCF法について解説する。
- 第13回 第12章「株式市場」 株価の理解の基礎としての配当割引モデル、リスクとリターンとの関係、株価を使った指標等を学ぶ。
- 第14回 第13章「法人税」 税金に関する基礎知識と法人税の基本的な計算構造について解説する。
- 第15回 第14章「企業の社会的責任と非財務情報開示」 CSR(企業の社会的責任)と統合報告等の新しい情報開示の動向を解説する。

教科書・参考文献

教科書 水口剛・平井裕久・後藤晃範 著『企業と会計の道しるべ』中央経済社、2017

参考書 明神信夫・水野一郎 他著『アカウンティング-現代会計入門』同文館出版,2007
佐藤裕一 著『ビジュアル 経営分析の基本(新版)』日経文庫,2003

授業外での学習

教科書を事前に読み、講義終了後は授業内容を復習しておくこと。

評価方法

平常点(中間テスト含む)20%、期末試験80%

履修上の注意

漫然と講義を聴くのではなく、各自、問題意識を持って臨むこと。途中、何回か実際に計算を行ってもらうので電卓を用意することが望ましい。

科目名 企業と会計D
Title Business and Accounting
科目区分 6群 必修及び演習

担当教員
非常勤講師 長谷川 記央 (ハセガワ ノリオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

この授業の目的は、経営学を学んでいく上で前提となる企業と会計についての基礎的事項を理解することである。具体的には、以下のことを到達目標とする。①複式簿記の原理が分かり、ごく簡単な取引事例から決算書が作れる。②基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)を読むことができ、初歩的な経営分析ができる。③企業と会計を取り巻く基本的な制度(株式会社制度、証券市場、情報開示など)を理解している。

達成目標

上記の目標を達成するために、財務諸表の読み方及びその作り方を中心に講義し、さらに必要に応じてその周辺の話題を取り上げ理解を深める。

スケジュール

- 第1回 第1章「会計の意義」 会計の歴史から説き起こし、現代の会計の全体像と会計を学ぶ意義について解説する。
- 第2回 第2章「株式会社」 現代の企業を支える基本的な制度である株式会社制度と、会社制度における会計の位置づけについて解説する。
- 第3回 第3章「資本市場」 資本市場の基本的機能と、資本市場を規律する金融商品取引法における会計について解説する。
- 第4回 第4章「財務諸表①」 主要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の意義と基本的な構造について解説する。
- 第5回 第5章「簿記」(1) 簿記の基礎を簡単な事例を通して学ぶ。仕訳から元帳への転記、試算表の作成まで。
- 第6回 第5章「簿記」(2) 精算表を使ったB/S、P/Lの作成、貸倒引当金、減価償却費等の決算整理事項。
- 第7回 第6章「財務諸表②」 キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、連結財務諸表について解説する。
- 第8回 第7章「財務諸表の分析①」 自己資本比率、流動比率等の安全性分析と、売上高利益率等の集積性分析について学ぶ。
- 第9回 第8章「財務諸表の分析②」 資本利益率であるROEとROAの意義及びそれらを分解して分析する手法を学ぶ。
- 第10回 第9章「原価計算」 製品原価計算の基本的な考え方及び原価管理の初歩について解説する。
- 第11回 第10章「損益分岐点分析」 直接原価計算の基本的な考え方と、損益分岐点分析の方法を学ぶ。
- 第12回 第11章「設備投資の意思決定」 投資意思決定の基礎として回収期間法とDCF法について解説する。
- 第13回 第12章「株式市場」 株価の理解の基礎としての配当割引モデル、リスクとリターンとの関係、株価を使った指標等を学ぶ。
- 第14回 第13章「法人税」 税金に関する基礎知識と法人税の基本的な計算構造について解説する。
- 第15回 第14章「企業の社会的責任と非財務情報開示」 CSR(企業の社会的責任)と統合報告等の新しい情報開示の動向を解説する。

教科書・参考文献

教科書 水口剛・平井裕久・後藤晃範 著『企業と会計の道しるべ』中央経済社、2017

参考書 明神信夫・水野一郎 他著『アカウンティング-現代会計入門』同文館出版,2007
佐藤裕一 著『ビジュアル 経営分析の基本(新版)』日経文庫,2003

授業外での学習

教科書を事前に読み、講義終了後は授業内容を復習しておくこと。

評価方法

平常点(中間テスト含む)20%、期末試験80%

履修上の注意

漫然と講義を聴くのではなく、各自、問題意識を持って臨むこと。途中、何回か実際に計算を行ってもらうので電卓を用意することが望ましい。

科目名 企業と会計(前期)
Title Business and Accounting
科目区分 6群 必修及び演習

担当教員
非常勤講師 越智 信仁(オチ ノブヒト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

この授業の目的は、経営学を学んでいく上で前提となる企業と会計についての基礎的事項を理解することである。具体的には、以下のことを到達目標とする。①複式簿記の原理が分かり、ごく簡単な取引事例から決算書が作れる。②基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)を読むことができ、初歩的な経営分析ができる。③企業と会計を取り巻く基本的な制度(株式会社制度、証券市場、情報開示など)を理解している。

達成目標

上記の目標を達成するために、財務諸表の読み方及びその作り方を中心に講義し、さらに必要に応じてその周辺の話題を取り上げ理解を深める。

スケジュール

- 第1回 第1章「会計の意義」 会計の歴史から説き起こし、現代の会計の全体像と会計を学ぶ意義について解説する。
- 第2回 第2章「株式会社」 現代の企業を支える基本的な制度である株式会社制度と、会社制度における会計の位置づけについて解説する。
- 第3回 第3章「資本市場」 資本市場の基本的機能と、資本市場を規律する金融商品取引法における会計について解説する。
- 第4回 第4章「財務諸表①」 主要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の意義と基本的な構造について解説する。
- 第5回 第5章「簿記」(1) 簿記の基礎を簡単な事例を通して学ぶ。仕訳から元帳への転記、試算表の作成まで。
- 第6回 第5章「簿記」(2) 精算表を使ったB/S、P/Lの作成、貸倒引当金、減価償却費等の決算整理事項。
- 第7回 第6章「財務諸表②」 キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、連結財務諸表について解説する。
- 第8回 第7章「財務諸表の分析①」 自己資本比率、流動比率等の安全性分析と、売上高利益率等の集積性分析について学ぶ。
- 第9回 第8章「財務諸表の分析②」 資本利益率であるROEとROAの意義及びそれらを分解して分析する手法を学ぶ。
- 第10回 第9章「原価計算」 製品原価計算の基本的な考え方及び原価管理の初歩について解説する。
- 第11回 第10章「損益分岐点分析」 直接原価計算の基本的な考え方と、損益分岐点分析の方法を学ぶ。
- 第12回 第11章「設備投資の意思決定」 投資意思決定の基礎として回収期間法とDCF法について解説する。
- 第13回 第12章「株式市場」 株価の理解の基礎としての配当割引モデル、リスクとリターンとの関係、株価を使った指標等を学ぶ。
- 第14回 第13章「法人税」 税金に関する基礎知識と法人税の基本的な計算構造について解説する。
- 第15回 第14章「企業の社会的責任と非財務情報開示」 CSR(企業の社会的責任)と統合報告等の新しい情報開示の動向を解説する。

教科書・参考文献

教科書 水口剛・平井裕久・後藤晃範 著『企業と会計の道しるべ』中央経済社、2017

参考書 明神信夫・水野一郎 他著『アカウンティング-現代会計入門』同文館出版、2007
佐藤裕一 著『ビジュアル 経営分析の基本(新版)』日経文庫、2003

授業外での学習

教科書を事前に読み、講義終了後は授業内容を復習しておくこと。

評価方法

平常点(中間テスト含む)20%、期末試験80%

履修上の注意

漫然と講義を聴くのではなく、各自、問題意識を持って臨むこと。途中、何回か実際に計算を行ってもらうので電卓を用意することが望ましい。

科目名 企業と会計(後期)
Title Business and Accounting
科目区分 6群 必修及び演習

担当教員
非常勤講師 越智 信仁(オチ ノブヒト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

この授業の目的は、経営学を学んでいく上で前提となる企業と会計についての基礎的事項を理解することである。具体的には、以下のことを到達目標とする。①複式簿記の原理が分かり、ごく簡単な取引事例から決算書が作れる。②基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)を読むことができ、初歩的な経営分析ができる。③企業と会計を取り巻く基本的な制度(株式会社制度、証券市場、情報開示など)を理解している。

達成目標

上記の目標を達成するために、財務諸表の読み方及びその作り方を中心に講義し、さらに必要に応じてその周辺の話題を取り上げ理解を深める。

スケジュール

- 第1回 第1章「会計の意義」 会計の歴史から説き起こし、現代の会計の全体像と会計を学ぶ意義について解説する。
- 第2回 第2章「株式会社」 現代の企業を支える基本的な制度である株式会社制度と、会社制度における会計の位置づけについて解説する。
- 第3回 第3章「資本市場」 資本市場の基本的機能と、資本市場を規律する金融商品取引法における会計について解説する。
- 第4回 第4章「財務諸表①」 主要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の意義と基本的な構造について解説する。
- 第5回 第5章「簿記」(1) 簿記の基礎を簡単な事例を通して学ぶ。仕訳から元帳への転記、試算表の作成まで。
- 第6回 第5章「簿記」(2) 精算表を使ったB/S、P/Lの作成、貸倒引当金、減価償却費等の決算整理事項。
- 第7回 第6章「財務諸表②」 キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、連結財務諸表について解説する。
- 第8回 第7章「財務諸表の分析①」 自己資本比率、流動比率等の安全性分析と、売上高利益率等の集積性分析について学ぶ。
- 第9回 第8章「財務諸表の分析②」 資本利益率であるROEとROAの意義及びそれらを分解して分析する手法を学ぶ。
- 第10回 第9章「原価計算」 製品原価計算の基本的な考え方及び原価管理の初歩について解説する。
- 第11回 第10章「損益分岐点分析」 直接原価計算の基本的な考え方と、損益分岐点分析の方法を学ぶ。
- 第12回 第11章「設備投資の意思決定」 投資意思決定の基礎として回収期間法とDCF法について解説する。
- 第13回 第12章「株式市場」 株価の理解の基礎としての配当割引モデル、リスクとリターンとの関係、株価を使った指標等を学ぶ。
- 第14回 第13章「法人税」 税金に関する基礎知識と法人税の基本的な計算構造について解説する。
- 第15回 第14章「企業の社会的責任と非財務情報開示」 CSR(企業の社会的責任)と統合報告等の新しい情報開示の動向を解説する。

教科書・参考文献

教科書 水口剛・平井裕久・後藤晃範 著『企業と会計の道しるべ』中央経済社、2017

参考書 明神信夫・水野一郎 他著『アカウンティング-現代会計入門』同文館出版、2007
佐藤裕一 著『ビジュアル 経営分析の基本(新版)』日経文庫、2003

授業外での学習

教科書を事前に読み、講義終了後は授業内容を復習しておくこと。

評価方法

平常点(中間テスト含む)20%、期末試験80%

履修上の注意

漫然と講義を聴くのではなく、各自、問題意識を持って臨むこと。途中、何回か実際に計算を行ってもらうので電卓を用意することが望ましい。